

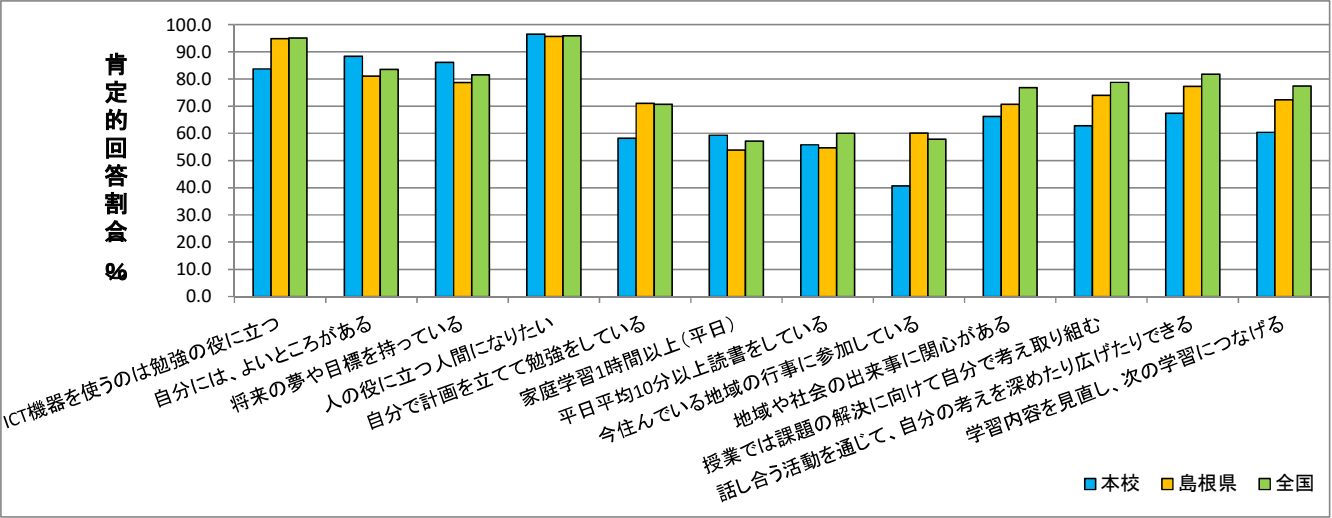
(1)学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
国語	○知識・技能の観点では無回答率が低く、正答率が高い。 ○思考・表現の観点では、短文であれば、何が書かれているのかを選択したり、記述したりできる。 ●複数の資料の文章の要点を捉えて、自分なりに文章に見出しをつけたり、捉えたことと自分の考えを比べたりすることが難しい。 ●文章や自分の考えの要点をまとめ記述することが難しい。	・文章を読むことへの抵抗を減らしたり慣れたりするために、実態に合わせ短文を読む機会を設ける。また、読み取った文章に題名や見出しをつけるなど、文章の要点を捉える取り組みを行う。(対話・記述) ・書く活動の機会を増やす。短文を書いたり、条件に合わせて文章を書いたりする活動に取り組みさせる。段落を設けて文章を書く練習を行い、文章のまとまりが意識できるようにする。
算数	○正しく計算する等、基礎的な技能は身に付いている。 ●思考力・判断力・表現力を問われる問題では、無回答率が高い。 ●図形を構成する要素(底辺や高さ等)などに着目して、面積の大小を判断することが難しい。 ●式や筆算を具体物や図に関連付けて考察することが難しい。	・基礎基本となる考え方や方法、性質を確実に定着させるために、算数用語を用いて適切に表現できるようにする。 ・具体物の操作や図をもとに、自分の考えた式を説明する活動を大切にする。また、友達の表した式について、具体物や図と関連させて考える活動を取り入れる。

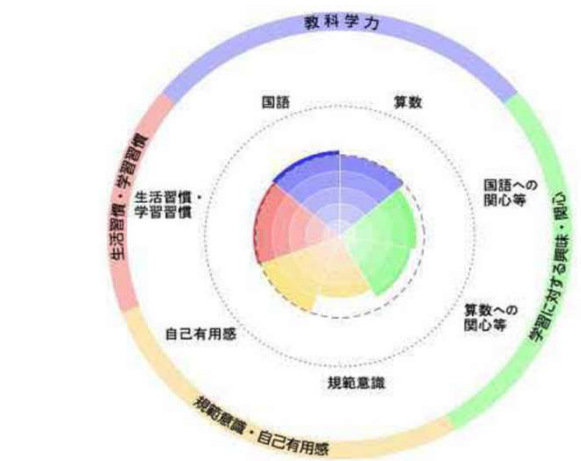
(2)児童質問紙調査から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
質問紙	○1日あたり1時間以上家庭学習に取り組む児童の割合が、県や全国と比べて高い。 ○新聞を月1回以上読む児童の割合が高い。 ●授業の中で感想や意見を友達に伝えたり、自分の考えをまとめたりしている児童の割合が、全国と比べて約2割低い。 ●自分の考えが相手に上手く伝わっているかどうか、自信がない様子が覗える。	・友達の考えを聴き、自分の考えとの共通点や相違点を見つけるなど視点をもって話し合う活動を行う。 ・単元を通して学んだことを自分の言葉でまとめたり、自分の考えを広げたりする活動を単元の終わりに意図的に取り入れる。

(3)児童質問紙調査の結果より(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています。)



(4)学力・学習状況調査結果チャート(破線は全国平均)



(5)その他、今後特に力を入れて取り組むこと

- ・読書習慣を身に付け、読書の質の向上を目指す。
- ・規範意識を高める。

【受検者数】

83 名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。